

人生の第一歩

人生の旅路の最初の一步は自分の足でとるものではない。おんぶされ、抱っこされ、また、最初の乗り物となる乳母車も、自分で操作することができない。しかも、大人達が行く方向を決めてくれる。この点で、日本とドイツとはほとんど



南山大学学長 ミカエル・カルマノ 2

違いがないであろう。人生が続くのである。第一ステージには自由な行動はなく、産声の後には、しばらくの間は無言の人生

古い写真に写る将来の兆し

の写真をよくよく振り返ってみれば、そこに自分の将来

ができる。学生をマイクロバスに乗せて、クラブやゼミの合宿につれて行ったこととのつながりも、この写

来の兆しを見つけることもできる。日本へ来て大型免許を取ったことの第一歩

真から何となく感じ取って、このリンブルク近くのアウトバーンの建設現場で

幼い頃。後方に復旧工事中のアウトバーンの陸橋が見える。49年



は、私の生まれた町リンブルクで、町を流れるライン川を背に写真を撮られた時に痛感した不自由さが促した願望から始まったと、今になってみると言うこと

微かに見える橋について少し説明を加えた方がいいかもしれない。これは、スピード制限がないことで有名なドイツの高速道路、アウトバーンのために1930年代の後半に建築された橋であるが、第二次世界大戦

私が長男として生まれたのは、(旧西)ドイツが民主主義国家として生まれ変わった年であった。乳母車の経験は大型車を運転するという夢に繋がったが、この夢が「日本」という国が登場する物語になるとは誰も予測できなかった。